

# 同志社大学

## 2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年 2月 25日提出

所 属	職 名	氏 名
文学部	教授	中井 義明
研 究 題 目	古典期ギリシア・ポリスにおける対外政策の決定と党派	
研 究 成 果 の 概 要	<p>(1) 本年度はペルシア戦争における敵のイメージを扱った。ペルシア王クセルクセスはギリシア人によって柔弱・傲慢な人物として描かれている。しかしこのようなクセルクセス像はペルシア戦争後の政治状況の中で創り出されたプロパガンダに過ぎないことを考察した。その成果は次の論考として発表される予定である。</p> <p>「クセルクセス」『文化学年報』第59輯(2010年)</p> <p>(2) 上記の研究との関連でペルシアによる小アジア征服の評価を行い、必ずしも収奪的な政策をペルシアがとらなかったことを考察した。その成果は次の論考として発表した。</p> <p>‘Persian Conquest of the Asia Minor and its Influence’,『古代史年報』7号、2009年、1-9頁。</p> <p>(3) ギリシアにおける古代都市発展の背景にある自然環境とそれに対するギリシア人の農業戦略を考察した。その成果は2010年1月30日に早稲田大学で行われた日本西アジア考古学会主催の公開シンポジウム「西アジア・エジプトにおける古代都市の成立と発展」において「ギリシア史の背景 - 都市を取り巻く環境と農業戦略 - 」という題で報告し、報告集に以下のペーパーを発表した。</p> <p>「ギリシア史の背景 - 都市を取り巻く環境と農業戦略 - 」『西アジア・エジプトにおける古代都市の成立と発展 - 都市景観の背後にあるもの - 』2010年、11-16頁。</p> <p>(4) 古代ギリシアの遺跡や遺物が独立後のギリシアにおいてどのように国民統合の道具として利用されてきたのかを考察し、2010年1月10日に同志社大学で開催した文学研究科主催の国際シンポジウム「古都物語 - 京都、奈良、ローマ、そしてポンペイ - 」において報告し、予稿集に以下のペーパーを掲載した。</p> <p>「はじめに」『国際シンポジウム2009 古都物語 - 京都、奈良、ローマ、そしてポンペイ - 』予稿集、2010年、1-4頁。</p>	